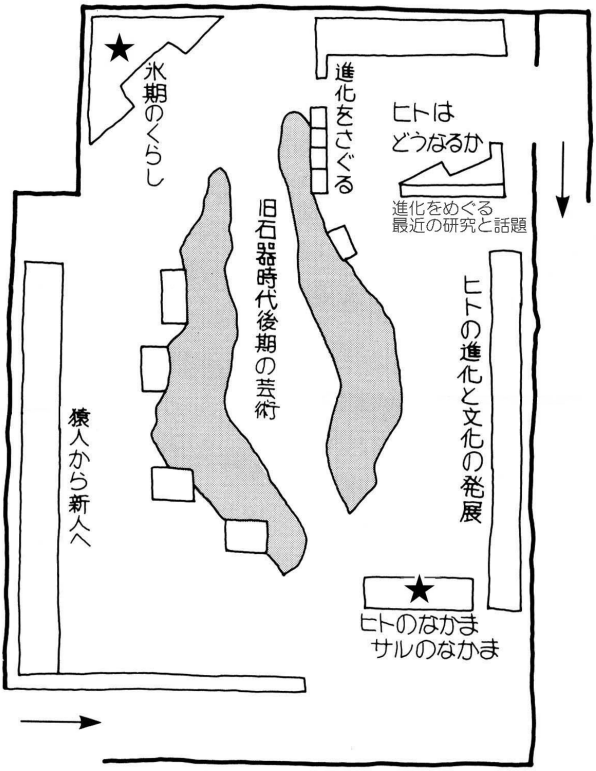
# 本館第1室：ヒトのはじまり——進化

ヒトが現在のような身体になり、現在のような文化を発展させるまでには600万年とも700万年ともいわれる長い年月がかかっています。この展示室では、人類のなりたちとその生物的、文化的特徴、そして全世界への拡がりを紹介します。

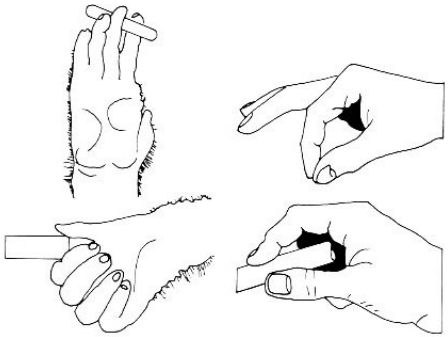



## EVOLUTIONS

Through biological specimens and prehistoric artifacts, this hall examines the process of human evolution and the diffusion of human beings to all over the world.

2019.04

## ヒトの器用な手




ヒトは直立二足歩行をすることにより、両手が自由になりました。それだけでなく、ヒトの手は脳の発達と互いに作用しあって、たいへん器用な指さばきができるようになりました。

ヒトの手は、親指が長く、他の4 本の指と十分に対向しているので物を上手に「にぎる」、「つかむ」、「つまむ」ことができます。いっぽう、類人猿は親指がみじかいので、ひとさし指と中指とで、あるいは折り曲げたひとさし指と親指とで物をつかみます。

## マンモスの骨で建てた家

シベリアでは、マンモスの骨や牙で建てた数万年前の住居跡が発見されています。直径約 5mのドーム型で、骨組みを丸太とマンモスの牙でつくり、その上に皮をかぶせた住居です。毛皮を押さえるためにはマンモスの牙や骨が利用され、ドームの接地部分のまわりには、マンモスの頭部やアゴの骨がならべられていました。ジオラマでその様子を再現しています。

身の回りのものを活用し、機能的な住居や衣服を発明して寒さを克服した人々は、やがてアラスカへわたりアメリカ大陸を南下していきます。このようにヒトは、生物学的な変化ではなく、文化によって新しい環境に適応していった結果、世界中へ広がっていきました。